

第1回ダムWG会議（2004.7.11開催）結果報告

2004.7.15 庶務発信

開催日時： 2004年7月11日（日）13：30～19：00

場 所： キャンパスプラザ京都 第1会議室

参加者数： WGメンバー委員 24名、WGメンバー外委員 4名 河川管理者 30名

1 主要な決定事項

- ・ 今本博健委員が先の運営会議でリーダーとして承認されたことが報告された。
- ・ ダムWGに、以下の3つのサブWGをおく。ダムWGは、ダム建設の必要性、代替案との比較などを行い、ダム建設の是非について審議する。

【丹生・大戸川・天ヶ瀬ダムWG】 【川上ダムWG】 【余野川ダムWG】

- ・ ダムWGにコアWGをおく。コアWGは、ダムWGの運営について審議するとともに、サブWGの審議を基本として、ダムWGが委員会に答申する原案を審議する。
- ・ サブWGおよびコアWGのメンバーは「別紙」のとおり。
- ・ ダムWGは基本的に「公開」で行う。検討結果も公表していく。
- ・ ダムWGは検討結果を12月中に報告書としてまとめることを目指して作業を進める。

2 審議の概要

庶務から資料1「ダムワーキンググループに係わる経過」を用いて経過説明がなされた後、審議に入った。

ダムWGの運営方法について

今本リーダーより「ダムWGの運営について」（今本メモ）を用いてダムWGの提案がなされた。

「ダムワーキンググループの運営に係わる検討事項」（資料2）について庶務から説明がなされた。

今本リーダーより、ダムWG会議は傍聴者の受け入れが難しい面が多いのではないかとの指摘があったが、メンバーから受け入れを望む声が多く、基本的に「対応」することとなった（第1回、第2回は傍聴者無し）。主要な意見は以下のとおり。

- ・ WG会議は、事務的な面から傍聴者の受け入れは難しいのではないか。密室性を避けるために、検討内容はできるだけ速やかに公開していきたい。
- ・ 何らかの方法で、傍聴を可能にした方が良い。整理券の配布等で人数制限をしてもいいから、傍聴受け入れを考えて欲しい。
- ・ 作業や勉強の時などは傍聴者を入れなくてもよいのではないか。

作業スケジュールとしては、現在の委員が任期のうちに結論を出したいという考えから、10月頃までにはまとまった成果をつくり、12月中には報告書としてまとめることとなった。

その他、「ダムWGの運営について」をベースに、「主要な決定事項」のとおり決定された。

川上ダムに係る報告（資料3-2をもとに）

河川管理者（木津川上流河川事務所）より説明がなされた。

主要な意見、質疑応答等は以下のとおり（例示）。

- ・ 資料 p17 の表で、黄色の網がけ部分のみ氾濫量が大きく減少するのはなぜか。  
次回までに説明できるようにしたい。
- ・ 治水計画の目標を何にするのか明確にする必要がある。被害の「解消」ではなく、「軽減」としたのであるから、目標の設定がないと議論できないのではないか。
- ・ 河川工学の専門家だけではないので、みんながわかるように説明して欲しい。
- ・ ハイドログラフで特定の洪水を前提としているが、その洪水を選んだ理由を教えて欲しい。
- ・ 県の管理部分は現況を前提としているのか。テクニカルタームはやさしく説明して欲しい。
- ・ 天端から余裕高を引いたところで破損するという前提はおかしいのではないか。その前提がおかしいと、計算の意味がなくなる。また、なぜに河道掘削をしないのか。前提が問題である。 等

余野川ダムに係る報告（資料 4-2 をもとに）

河川管理者（猪名川総合工事事務所等）より説明がなされた。

主要な意見、質疑応答等は以下のとおり（例示）

- ・ 被害の「軽減」の目標を決める必要がある。たとえば、床上浸水をしないようにするとか、浸水頻度を軽減するとか。あとは、経済的な検討も重要である。
- ・ 前回の説明の内容と今回の説明が異なるのではないか。説明のたびに違いような気がする。流量で説明したり、容量で説明したりしており、全体としての比較がわかりにくい。
- ・ 事業量がある程度示してもらわないと困る。お金の有効活用という面では問題ではないか。  
治水効果、事業費等を総合的に評価する必要がある。説明させていただきたい。

- ・ 数字が出てきても、以前の検討から何も進んでいないように思う。きっちり検討したものを出示してもらわないと、キャッチボールにならない。

一庫ダムの説明

- ・ 放流の操作規則について、新旧の違いをもっと説明して欲しい。差があまりにもあり過ぎる。
- ・ 一庫ダムでは、一定量放流するよりも、流入量に応じて放流量を増やした方が良いのではないか。
- ・ p45 の 2 つのケースとは何か。何が前提で、何が結果なのかよくわからない。他のところも、全部そのような書き方になっている。
- ・ 高度な情報技術を使ったコントロールの方法があるのではないか。
- ・ 「できない」という答え方はいかななものか。ここまででははっきり言えるが、こういう点については「どうでしょうか？」という問いかけが重要だ。
- ・ 水利権等の問題をまじめに考えておいた方がよい。緊急湧水状態では、水を融通する必要がある。
- ・ パーツは出ているが、パーツの組み合わせによる論理構成になっていない。

川上ダム・代替案の検討、水需要計画の見直し

- ・ 現状を共有しようということをやっているが、それぞれの担当部署で差があるように感じる。
- ・ 利水計画があまり進んでいない。従来の検討の繰り返しの様な気がする。次回はきっちりしたものを出示して欲しい。

以上

このお知らせは委員の皆様には主な決定事項などの会議の結果を迅速にお知らせするため、庶務から発信させていただくものです。